

# 元気な未来創造戦略について



■ 若年人口の増加により、持続可能な人口構造への転換を図るため、3つの目指すべき高知県像の実現に向けて施策を総動員

目指すべき  
高知県像

いきいきと仕事が  
できる高知

産業振興計画 等

いきいきと生活が  
できる高知

教育大綱、健康長寿県構想 等

安全・安心な  
高知

南海トラフ地震行動計画 等

戦略の目指す姿 「将来を担う若者が、地域地域で魅力のある仕事に就き、いきいきと住み続けられる元気な高知県」

若年人口増加に向けた取り組み

若年人口の増加

若年人口の減少傾向に、令和9年までに歯止めをかけ、令和15年頃には令和4年の水準まで回復させることを目指す

戦略全体を貫く目標(R9)

○若年人口(34歳以下)：「若年人口の減少数(前年比)をゼロ」とする

社会増減の改善

自然増減の改善

**A** 仕事の創出による若者の増加

政策1

魅力ある仕事をつくり、若者の定着につなげる

**B** 婚姻数の増加

政策2

結婚の希望をかなえる

**C** 出生数の増加

政策3

子どもを生み、育てたい希望をかなえる

人口減少に  
適応する  
取り組み

持続可能な  
社会の実現を  
目指す  
4Sプロジェクト  
の推進

人口の将来展望

若年人口の増加により、  
持続可能な人口構造への  
転換を図る

《将来展望》

人口 2060年：約55.7万人  
[現状(2023年)：66.6万人]

出生率 2040年：2.07、2050年：2.27  
[現状(2022年)：1.36]

社会増減 2040年：1,000人の社会増  
[現状(2022年度)：324人の社会減]

政策1 魅力ある仕事をつくり、若者の定着につなげる

主な数値目標(R9)

- 就業者数(15～34歳)：61,500人
- 人口の社会増減：「社会増減をプラス」にする

【基本的方向】

1 魅力のある仕事をつくる

- (1) 若者の所得向上の推進
- (2) 女性活躍の環境づくりの推進
- (3) 多様な人材が定着・活躍しやすい労働環境の整備
- (4) 若年層の雇用の受け皿となる企業誘致
- (5) 起業や新事業展開の促進



2 新しい人の流れをつくる

- (1) 県内就職の促進
- (2) 移住の促進
- (3) 外国人材の活躍推進

政策2 結婚の希望をかなえる

主な数値目標(R9)

- 婚姻件数：2,500組

【基本的方向】

出会いや結婚を後押しする

- (1) 出会いの機会の創出
- (2) 結婚支援の推進



政策3 子どもを生み、育てたい希望をかなえる

主な数値目標(R9)

- 出生数：4,200人

【基本的方向】

妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 理想の出生数をかなえる施策の推進
- (2) 住民参加型の子育てしやすい地域づくり



政策実現に向けた条件整備

1 「共働き・共育て」の県民運動と意識改革の推進

主な数値目標(R9)

- 県内企業における男性の育児休業取得率：64%

【基本的方向】

「共働き・共育て」の県民運動と意識改革の推進  
～固定的な性別役割分担意識の解消に向けて～

2 中山間地域の持続的な発展

主な数値目標(R9)

- 若年人口(34歳以下)の減少数(前年比)をゼロとする中山間地域の市町村数：34市町村

【基本的方向】

中山間地域再興ビジョンに基づく取り組みの推進

- (1) 若者を増やす (2) 暮らしを支える (3) 活力を生む (4) しごとを生み出す

3 デジタル実装の土台づくり

主な数値目標(R9)

- ①居住地における光ファイバ等整備率(希望世帯ベース)：100%
- ②高知デジタルカレッジにおける人材育成者数：400人

【基本的方向】

デジタル実装を下支えする取り組みの推進

- (1) 情報通信インフラの整備 (2) デジタル化を支える人材の育成・確保

4Sプロジェクト  
の推進！

人口減少に適応  
した、持続可能  
な社会の実現を  
目指す

※ Smart Shrink for  
Sustainable Society  
持続可能な社会の実  
現に向けた賢い縮小

1 公共サービス

2 産業

3 地域

## 若年人口の増加



戦略全体を貫く目標(R9)：「若年人口(34歳以下)の減少数(前年比)をゼロ」とする

### ◆目標の進捗状況

	R4 (出発点)	R5	R6	R7	R9
目標					0人
実績	△3,743人 (R4.10時点)	△4,293人 (R5.10時点)	△4,599人 (R6.10時点)	△4,586人 (R7.10時点)	
達成度					

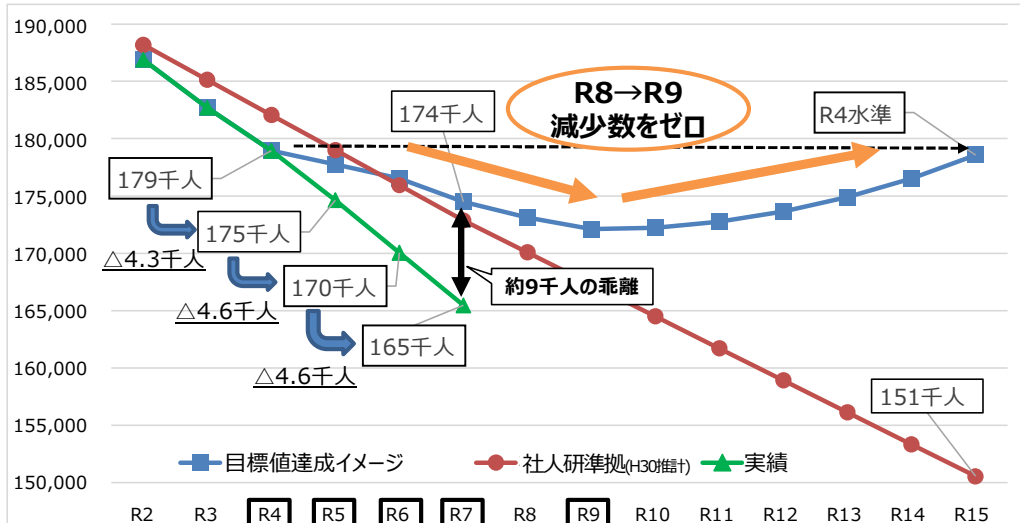
※各年10月1日時点

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

### ◆数値目標の達成見込み

- 若年人口(34歳以下)の減少数は僅かに縮小(13人の改善)。令和6年10月時点:前年比△4,599人  
令和7年10月時点: " △4,586人
- 令和9年度の目標達成に向けて、現時点で若年人口の減少に歯止めをかける状況には至っておらず、令和7年度の数値が改善傾向にあるのか、一過性のものかは現時点で判断できない。

### ◆若年人口(34歳以下)の推移【イメージ】



社会増減の改善



自然増減の改善

A

仕事の創出による若者の増加

B

婚姻数の増加

C

出生数の増加

数値目標

### 若年就業者数(15~34歳)

	R2 (出発点)	R5	R6	R7	R9
目標					61,500人
実績	66,810人	62,434人 (推計値)	60,790人 (推計値)	59,150人 (推計値)	-
達成度					-

※若年就業者数の推計値は、R2実績値に若年人口の減少率を乗じて算出

達成見込み

- 若年人口を元に推計すると、令和7年10月時点で59,150人と、R9目標61,500人を下回る状況。
- 22歳前後の転出増加、転入減少が拡大しており、県内就職の減少や、若者世代の転職(県外転出の理由の2割)が就業者数の減少に影響している。

### 人口の「社会増減をプラス」にする

	R4 (出発点)	R5	R6	R7	R9
目標					0<
実績	△324人	△1,801人	△2,594人	+36人 (R7.4~11)	-
達成度			+31 (R6.4~11)		-

- 令和6年4~11月累計: +31人
- 令和7年4~11月累計: +36人
- 社会増減は、前年同期比で5人増加したが、令和5年の数値(+572人)には届いておらず、本年度の目標達成は難しい状況。

### 婚姻件数

	R4 (出発点)	R5	R6	R7	R9
目標		2,208組	2,278組	2,345組	2,500組
実績	2,189組	1,985組	2,071組	1,635組 (R7.1~10)	-
達成度		B	B	B (年換算2,049組)	-

- 令和7年1~10月までの累計は1,635組と、前年同期からやや減少(▲16組)。これまでの傾向などを踏まえると数値目標の達成は厳しい状況。
- 一方で、応援団イベントの参加者数やマッチング交際成立数は上昇してきており、「出会いの機会の創出」などの施策の拡充効果が発揮され始めている。

### 出生数

	R4 (出発点)	R5	R6	R7	R9
目標					4,200人
実績	3,721人	3,380人	3,108人	2,660人 (R7.1~10)	-
達成度					-

- 令和7年1~10月までの累計は2,660人と、前年同期より49人減少。
- 若年人口の減少に加え、婚姻数の減少が出生数の減少に影響している。
- 目標の達成に向けては、理想の出生数をかなえる施策の推進や住民参加型の子育てしやすい地域づくりに向けた取り組みの強化が必要。

1. 仕事を通じた若者の定着・増加

◆現状

【移住者数】 R5 R6 R7.4月～9月
1,930人⇒2,241人⇒1,300人
(対前年107.5%)
【転入者数】 H26 R元 R5 R6
9,018人⇒8,513人⇒8,278人⇒7,513人
・移住者数は増加しているが、転入者は減少

【転入・転出分析（令和7年7月）】
（分析結果）

- ①新卒採用に係る転出入の状況が急激に悪化
②若年層において一定の割合で転職の動き
中山間へのUターン転職の状況が悪化している可能性
③企業等の転勤の減少が、長期的な転入者の減少に影響
（対応の方向性）
①若者に選ばれるために、「高知県で働くことに希望を持てる」環境整備や情報発信
②転職を検討している県内外の若者を対象とした施策
③転勤制度が縮小していることを踏まえた対策



2. 婚姻数、出生数の増加

◆現状

【婚姻数】 R5 R6 R7.1～8月※
1,985組⇒2,071組 ⇒ 1,362組
(過去最少) (対前年96.1%)
【出生数】 R5 R6 R7.1～8月※
3,380人⇒3,108人⇒ 2,110人
(過去最少) (対前年96.9%)

※R7速報値は外国人を含む数字のため、過去実績と単純比較はできない

【婚姻に関する分析】

- ・若者は結婚に対して慎重・消極的となっている
・若者の結婚を支援に向け、出会いの機会の提供に加え、決断を後押しする環境整備や情報提供・働きかけが必要

◆今年度の動き

強化1 若者の所得向上の推進

【若者所得向上検討チーム】
・各分野における「収益の確保」「人材・組織課題の解決」の2系統のアプローチが有効であり、特に「高付加価値化」の取組が重要
⇒<R8年度取り組み>
改革に向けたモデルの横展開と支援の拡充

強化4 共働き・共育てのさらなる推進

【共働き・共育ての推進】
・共働き・共育て推進会議を今年度新たに設置
・育休取得率の公表企業 675社(R7.9月末)
⇒<R8年度取り組み>
男性育休があたりまえの社会の実現に向けた施策の更なる推進

強化2 移住・定住対策のさらなる強化

【移住促進】 【転職対策】
・デジタルマーケティングの統一化
・転職に伴う転出に関し、要因分析を実施
⇒<R8年度取り組み>
UIターン転職支援の強化
【キャリア教育】
・R7年度に高知の魅力に触れる取組を大幅に拡充
⇒<R8年度取り組み>
教師、保護者、地域の連携による、さらなる充実

◆令和8年度の強化の方向性（案）

方向性1 高付加価値型経済への転換

- ・企業の生産性向上に向けた施設整備支援
・事業者のデジタル化の推進支援
・企業の規模拡大に向けた取り組み支援
・起業や新事業展開、新商品開発、外商拡大への支援
・企業の経営改革や1次産業の法人化への支援

方向性2 多様な人材が活躍できる環境の実現

- ・企業の生産性向上に向けた人材育成支援
・共働き・共育ての更なる推進（男性育休の取得促進）
・女性管理職登用促進
・キャリアパスの導入支援
・若者や女性が参入しやすい就業環境、業務内容への転換
・外国人材の活躍促進

方向性3 「若者に選ばれる高知」を目指した移住・定住対策の強化

- ・移住促進策の強化
・県内就職・県内定着の促進
・UIターン転職支援の強化
・県内転職に向けた対応策
・地域への理解と愛着を育むキャリア教育の更なる強化

◆今年度の動き

強化3 多様な出会いの機会の大幅な拡充

【県】
・メタバースを活用した新たな出会いイベントの実施
・社会人交流事業の拡充、自然な出会いの機会の拡充
【市町村】
・人口減少対策総合交付金を活用した、出会いのイベントや結婚支援の取り組みが事業化
⇒<R8年度取り組み>
自然に出会いたい若者、恋愛経験の少ない未活動層、UIターン者など、出会いに関する様々なニーズに対応した出会いの機会の拡充

◆令和8年度の強化の方向性

方向性4 ニーズに応じた出会いの機会の拡充とライフデザイン支援（気運の醸成）

- ・ニーズに応じた多様な出会いの機会の拡充
・若者のライフデザイン支援（気運の醸成）
・共働き・共育ての更なる推進（男性育休の取得促進）【再掲】



# 婚姻件数・出生数の状況

## ○婚姻件数(月別)

出典：人口動態統計（厚生労働省）

(組)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
R5	月	155	175	281	146	177	144	111	208	125	110	197	156	1,985
	累計	155	330	611	757	934	1,078	1,189	1,397	1,522	1,632	1,829	1,985	—
R6	月	191	181	240	120	195	127	210	153	118	116	195	225	2,071
	累計	191	372	612	732	927	1,054	1,264	1,417	1,535	1,651	1,846	2,071	—
R7	月	128	160	233	113	171	124	248	185	109	165			1,635
	累計	128	288	521	633	804	928	1,177	1,362	1,471	1,635			—

※日本人のみ、R7.1-10月は推計値

〈参考〉【全国計】R7.1～10累計 397,371組（R6同期比2.6%増）

R7.1～10累計 1,635組  
R6同期比▲1.0%減  
R5同期比▲0.2%減

## ○出生数(月別)

出典：人口動態統計（厚生労働省）

(人)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
R5	月	298	290	278	270	292	279	333	308	311	319	268	283	3,529
	累計	298	588	866	1,136	1,428	1,707	2,040	2,348	2,659	2,978	3,246	3,529	—
R6	月	277	258	245	281	280	255	294	288	244	287	254	270	3,233
	累計	277	535	780	1,061	1,341	1,596	1,890	2,178	2,422	2,709	2,963	3,233	—
R7	月	283	225	258	265	266	257	275	281	273	277			2,660
	累計	283	508	766	1,031	1,297	1,554	1,829	2,110	2,383	2,660			—

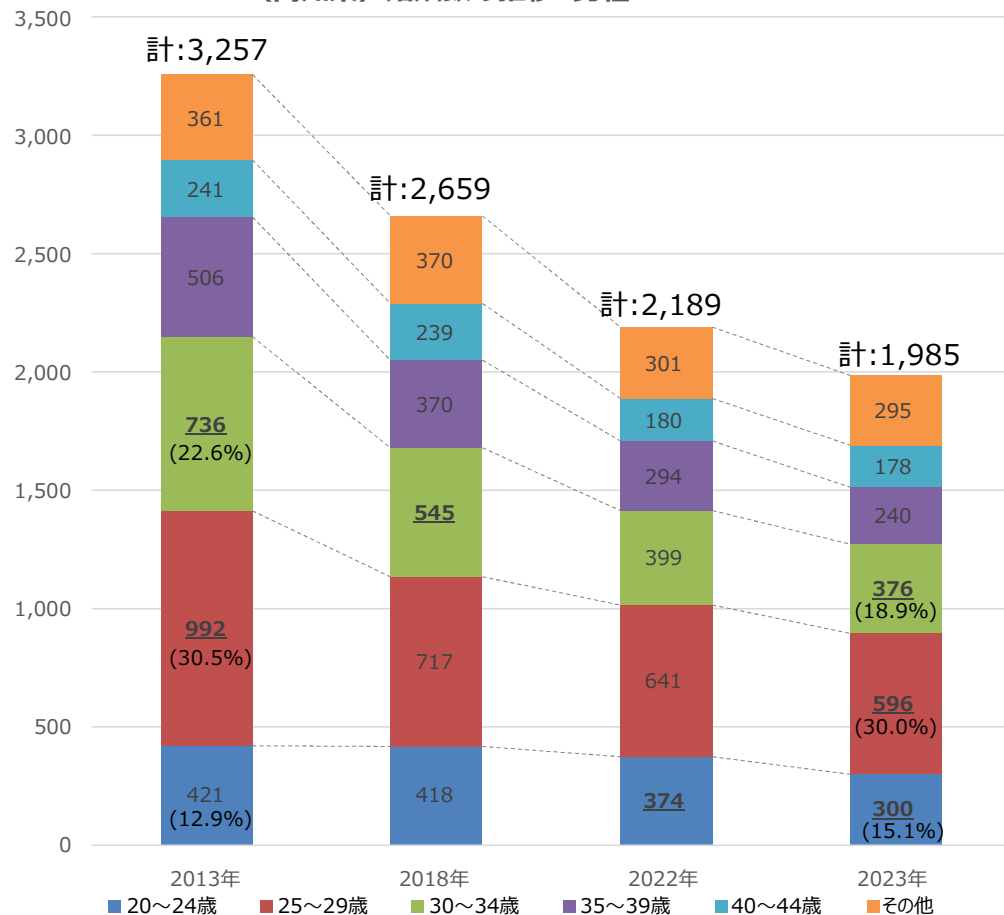
※外国人含む

〈参考〉【全国計】R7.1～10累計 588,274人（R6同期比▲2.5%減）

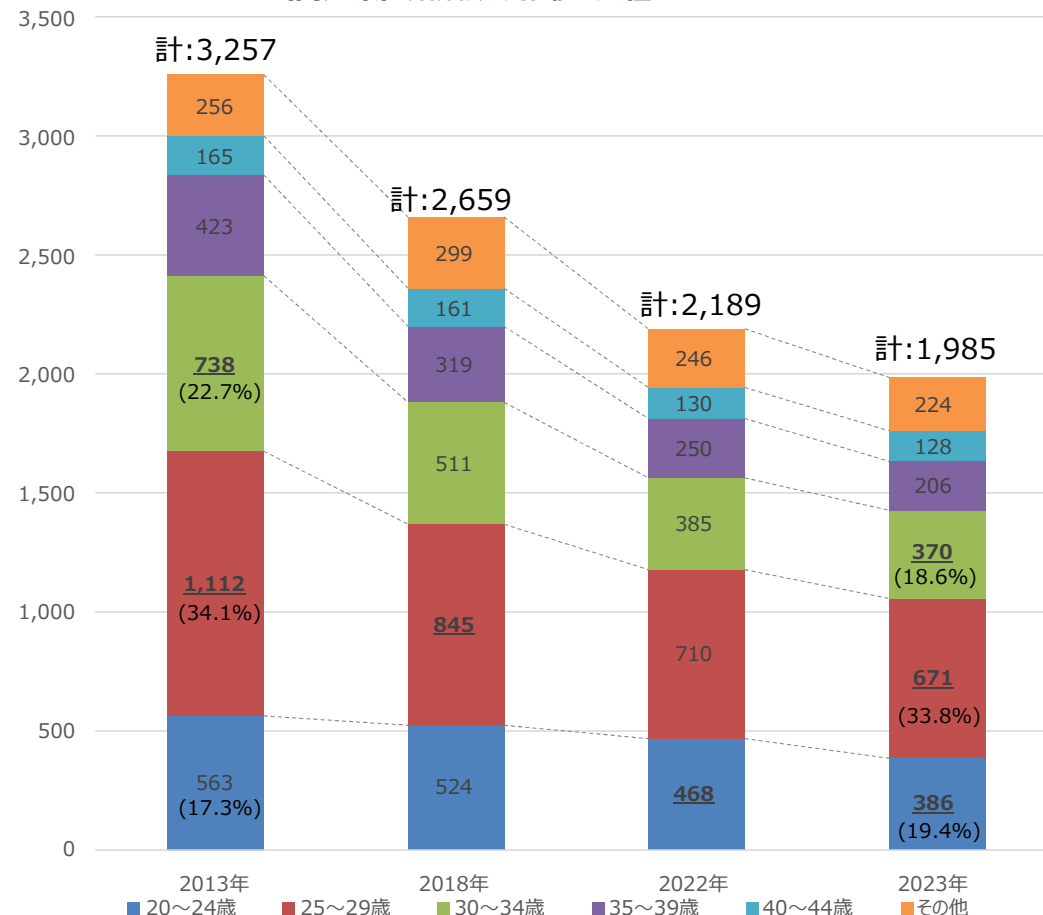
R7.1～10累計 2,660人  
R6同期比▲1.8%減  
R5同期比▲10.7%減

# 【高知県全体】婚姻数の推移

(高知県) 婚姻数の推移 男性



(高知県) 婚姻数の推移 女性



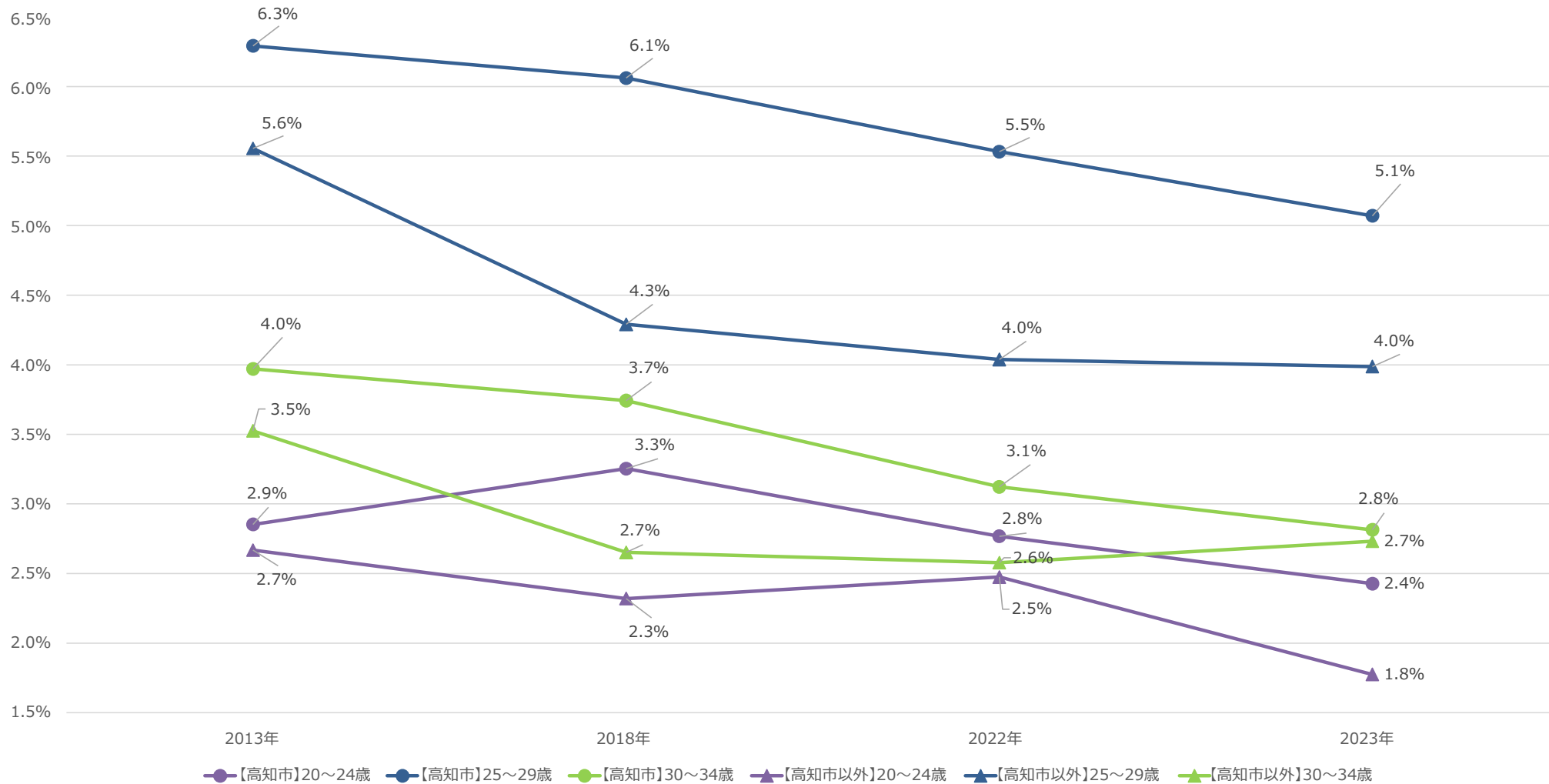
出典：人口動態統計（厚生労働省）※初婚、再婚どちらも含む

## 【分析】

- ・過去10年間で、全年齢階級計の婚姻数は▲39.1%（2013年:3,257→2023年:1,985）※全国は▲28.1%
- ・年齢階級別に見ると、婚姻数の減少が最も大きいのは、男女共に25~29歳（男:▲396、女:▲441）、次いで30~34歳（男:▲360、女:▲368）  
⇒25~34歳は結婚のボリュームゾーンであり、全体の未婚化を反映している
- ・全体の婚姻数に対する割合は、男女ともに20~24歳が増加、25~29歳、30~34歳では減少
- ・直近1年間で見ると、男女共に20~24歳の婚姻数の減少が大きい（男:▲74、女:▲82）  
⇒若年層の収入が増えていないことを背景に婚姻数が減少している可能性がある

# 人口に占める婚姻数の割合（男性）

## （高知市、高知市以外）人口に占める婚姻数の割合 男性

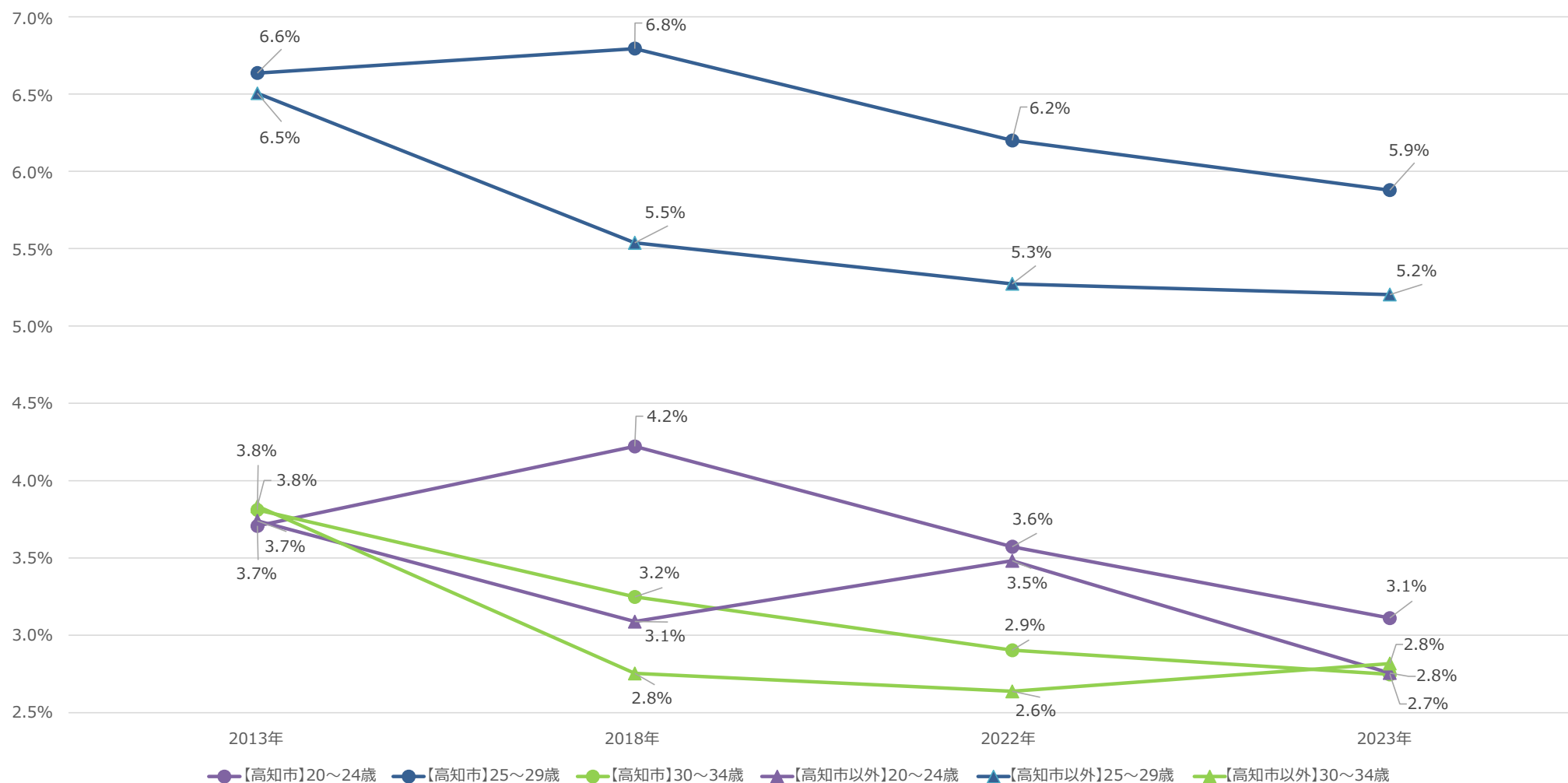


出典：住民基本台帳に基づく人口（日本人のみ）、人口動態統計（厚生労働省）※初婚、再婚どちらも含む

### 【分析】

- ・過去10年間で、20～24歳、25～29歳の区分において、高知市以外の減少幅が大きい（20～24歳:0.9ポイント、25～29歳:1.6ポイント）  
⇒中山間地域において、高校、大学を卒業後、若くして結婚するケースが比較的多かったが、少なくなっていると推測
- ・高知市以外では、各年齢階級において、2013年→2018年の減少が大きく、高知市では2018年以降の減少が大きい

## （高知市、高知市以外）人口に占める婚姻数の割合 女性



出典：住民基本台帳に基づく人口（日本人のみ）、人口動態統計（厚生労働省）※初婚、再婚どちらも含む

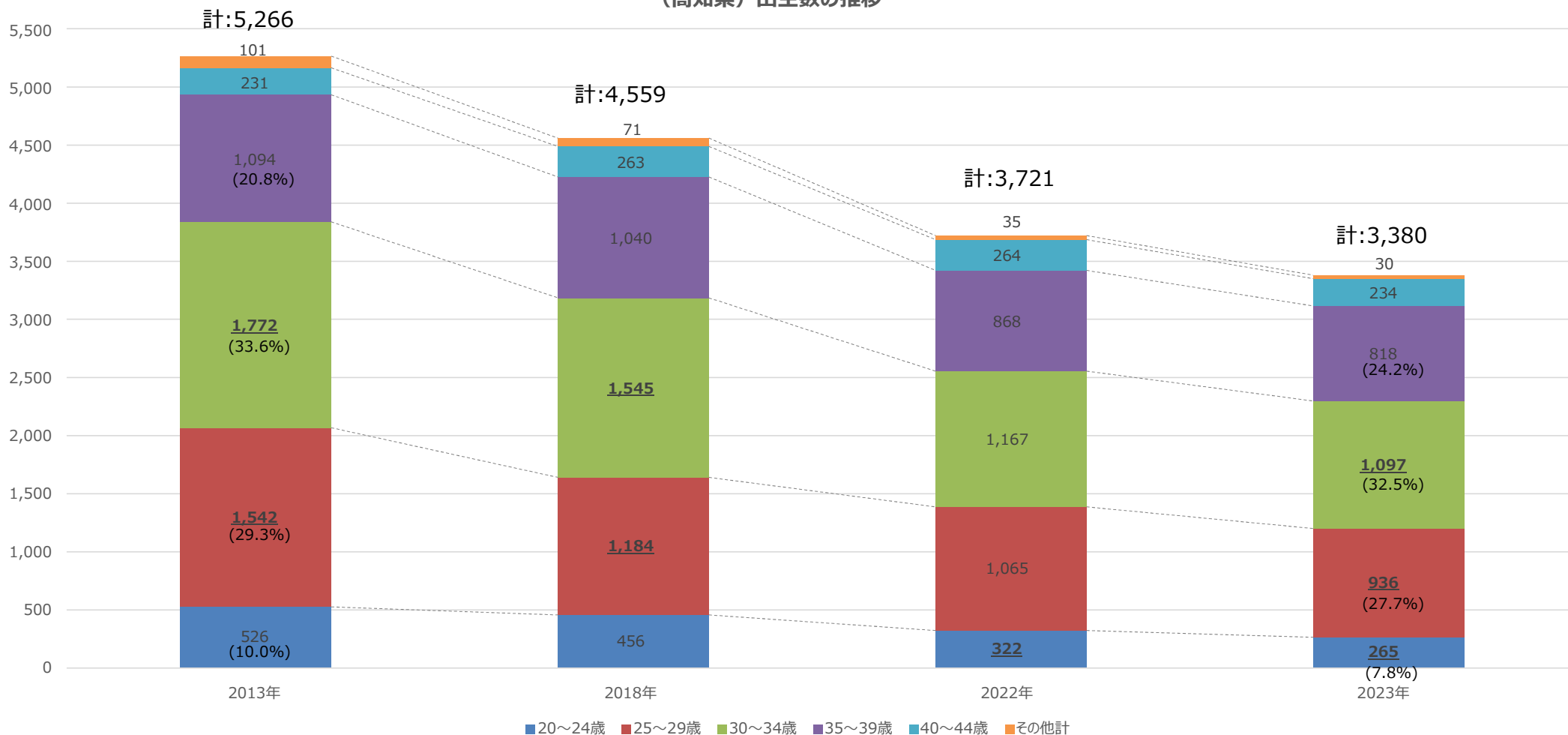
### 【分析（男性と同じ）】

- ・過去10年間で、20~24歳、25~29歳の区分において、高知市以外の減少幅が大きい（20~24歳:0.9ポイント、25~29歳:1.3ポイント）

⇒中山間地域において、高校、大学を卒業後、若くして結婚するケースが比較的多かったが、少なくなっていると推測

- ・高知市以外では、各年齢階級において、2013年→2018年の減少が大きく、高知市では2018年以降の減少が大きい

(高知県) 出生数の推移

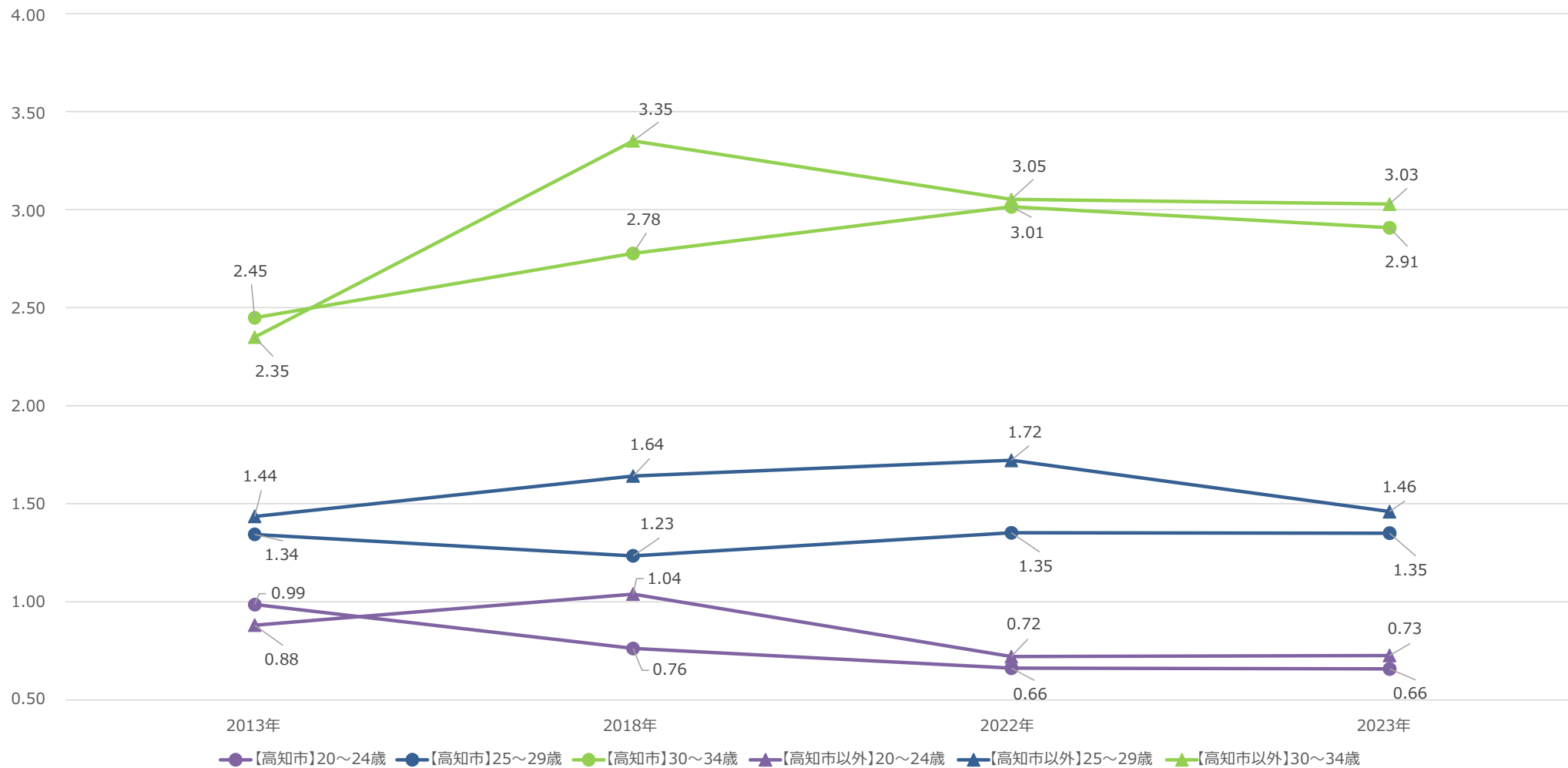


出典：人口動態統計（厚生労働省）

## 【分析】

- ・過去10年間で、全年齢階級計の出生数は▲35.8%（2013年:5,266→2023年:3,380）※全国は▲29.4%
- ・過去10、5年間で、母の年齢別で見たときに出生数の減少が最も大きいのは、30~34歳（10年:▲675、5年:▲448）、次いで25~29歳（10年:▲606、5年:▲248）  
⇒婚姻数についても、この年代での減少が大きく、そのことが影響していると考えられる
- ・直近1年間で、母の年齢別で見たときに出生数の減少が最も大きいのは、20~24歳（▲57）  
⇒若年層の収入が増えていないことを背景に出生数が減少している可能性がある

## (高知市、高知市以外) 婚姻数に対する出生数の比率



出典：人口動態統計（厚生労働省）※初婚、再婚どちらも含む

### 【分析】

- 2018年以降、婚姻数に対する出生数の比率は全ての年齢階級において、高知市以外の方がやや高い
- 高知市、高知市以外共に、婚姻数に対する出生数の比率は概ね横ばい  
⇒結婚したら子どもを産む、子どもを産まないのであればそもそも結婚をしないという人が多い可能性がある